

上場企業個人株主づくりの力をつけている。投資を促すキーワードは「長く・小さく・増やす」の3つ。保有期間の長い株主を優遇したり、少ない元手でも投資できるように小口化したり、株式配当を増やす動きだ。2014年1月の少額投資非課税制度（日本版ISA）NISA（開始まで1カ月。安定株主の裾野を広げる好機になると期待し、企業側の多様な取り組みが進んでいる。

上場企業

個人株主づくりへ導入ス、金券などを株主に贈る株主優待制度を活用して長期株主を優遇する。KDDIは14年に新たに株主優待を導入する。

個人株主づくり NISAは好機

個人株主づくりへ向けた上場企業の取り組み

株主優待で長期保有者を優遇	
KDDI	保有期間や株数で金額に差がつくクーポンを新導入
京王電鉄	3年以上保有する株主には乗車証を追加発行
ロート製薬	投資単位を下げ、長期保有者に自社製品を追加送付
株式分割によって投資金額を少額に	
京セラ	10月に29年ぶりに分割。100万円以下で投資が可能に
出光興産	2014年1月に1株を4株に分割
日本ビルファンド投資法人	2014年1月に投資口1口を2口に分割
株式配当を上積み	
日本電産	年90円と前期比5円増配。今後は配当性向30%を目標
LIXILグループ	配当性向の目標を変更し、年50円と前期比10円増配
富士重工業	北米好調で最高益を受け、配当を2.7倍の年40円に

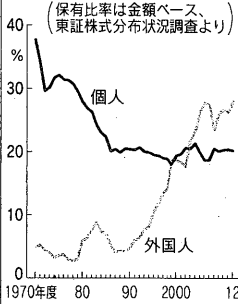
長期を優遇

元手少なく

配当を増額

自社店舗や家電量販店などで使用できるクーポンを株主に配るが、保有期間や株数によって9段階で差をつける。保有期間1年未満で株数が1000株未満なら5000円相当だが、5年以上2000株以上なら4倍の2万円相当を渡す。京王電鉄も14年3月から株主への優待乗車券を充実する。5000株以上を3年以上保有する株主には追加で乗車券を上

個人の株式保有は20%に沈んだまま



乗せする。長期保有者には新たにレジャー施設の招待券も贈る。大和インベスター・リレーションズによると保有期間に応じて優待内容に差がある企業は9月末で92社。キュービィは優待制度を今年見直し、自社製品を贈る対象を3年以上継続して保有する株主に限るようになった。もう一つ、目立つのは小口の資金でも投資しや

なる。ロート製薬は投資単位を1000株から100株に引き下げる。小口化は不動産投資信託（REIT）でも広がる。日本ビルファンド投資法人とジャパンリアルエステイト投資法人（JRE）は投資口1口を2口に分割する。最低投資額を半額に切り下げることで「幅広い個人にNISA口座での投資機会を提供したい」（JRE運用会社の片山浩社長）。

さらに、株式配当そのものを増やして魅力を高める取り組みも広がる。業績が好調な富士重工業や日本電産など、4〜9月期決算を踏まえ、今期の配当を一段と乗せする企業が相次いでいる。3月期決算会社の今期の配当額は総額で約6兆7000億円（電力などを除く。前期比12%増え）6年ぶりに過去最高を更新する見通しだ。業績回復で手元資金が膨らんでおり、株主への還元を積極化している。個人の株式保有比率は過去20年以上20%前後で沈んだまま。一方で外国人投資家が比率を上げてきた。ヘッジファンドや機関投資家の株式売買はときに一方へ傾きがち。「多様な見方を持つ個人株主が増えることで株価の変動を抑える効果が期待できる」（野村インベスター・リレーションズの指摘がある）。

出光興産は14年1月に1株を4株に分割する。同社の株価は2日終値で9180円。現在は投資するのに通常、最低91万8000円が必要だが、分割後は20万円強で可能